資料２

『養老先生の「現代の“参勤交代論”」について』（まとめ・天野）4月11日に一部修正

養老先生はいくつもの著作で、「参勤交代論」を提案されています。３月１５日の委員会では、「日本人について今一番心配している“鬱”についても、この『参勤交代』（お役人言葉で言うと「二地域居住」というらしい）がひとつの解決法となるのではないかと自分は考えている。」と話されました。

養老先生は、都市と田舎の「二地域居住」には、次のような効果や目的があると考えておられます。

１．来たるべき大地震期に備えて災害時の避難地を作っておく。そのためには、田舎に、「第二の親類のような関係」も作っておく。

２．「クラインガルテン」（ドイツ）、「ダーチャ」（ロシア）、「アロットメントガーデン」（イギリス）などのような「市民農園」を田舎に作り、そこへ都市生活者を週末に向かわせることによって、次の効果が期待できる。

①「身体」を動かすことによって、精神の「健康」を取り戻せる。

②「石油」が枯渇した時には「流通」が止まる可能性があるが、田舎の「第二の家」で農地を耕す訓練をしておくことによって、「食料自給」の手法を確立できる。

３．田舎に、その地域の材で「木の家」を作ることで、地域材の使用、その他の「木材サプライチェーンマネージメント」に貢献できる。

４．さらに、その木の家に、「耐震」、「断熱」の機能を持たせることによって、既に住んでいる都会の「第一の家」の方にも「耐震」、「断熱」機能を持たせておくことが必要であることに“気づき”を与えることができる。

５．フランスが「１２２％」もの総合食料自給率を持ち得ているのは、１９７０年代に都市居住者を田舎に向かわせる改革が集中してとられたからである。その意味で、政府の「高速道路無料化論」は、正当な意義付けをして国民に納得してもらうことが良い。因みに、我が国の総合食料自給率は３９％。カナダは１４５％。アメリカは１２８％。穀物自給率は、我が国は２７％、フランスは１７３％。1960年の我が国は８２％あった。